

アイノとアルヴァ 二人のアアルト

AINO and ALVAR AALTO: Shared Visions フィンランドー建築・デザインの神話

2021年7月10日(土)ー8月29日(日)

※開幕日を7月3日から変更しました。



(1)



(2)



(3)



(4)

(1) アイノ・アアルトとアルヴァ・アアルト、ニューヨーク万国博覧会・フィンランド館にて
1939年 Aalto Family Collection

(2) アルヴァ・アアルト 41 アームチェア パイミオ、1932年 (design)
Alvar Aalto Foundation Photo:Tiina Ekosaari

(3) アイノ・アアルト ボルゲブリック・シリーズ、1932年 (design) Alvar Aalto Foundation

(4) ニューヨーク万国博覧会・フィンランド館、1939年 Alvar Aalto Foundation

本展のみどころ

- ・フィンランドを代表するモダニズム建築の巨匠、アルヴァ・アアルトがパートナーのアイノとともに築いた25年の業績を紹介。
- ・これまで注目されてこなかったアイノの建築家・デザイナーとしての実績と思想に焦点をあてる。
- ・アアルト財団とファミリー・コレクションから借用した建築図面や家族写真など日本初公開を含む貴重な資料を多数展示。
- ・最小限住宅展の再現、ニューヨーク万国博覧会フィンランド館のうねる壁の一部再現など、体感できる展示を実現。

開催趣旨

モダニズムの建築家として世界的に活躍したアルヴァ・アアルト(1898-1976)には、25年間にわたりデザインパートナーとして対等な関係にあった妻アイノ・アアルト(1894-1949)がいました。現在、アルヴァの業績とされている多くの作品には、アイノの思想が多分に生かされていたことが明らかになっています。二人は、「日常の暮らしにこそデザインが必要である」という思想から、フィンランドの環境特性に基づき、自然のモチーフを取り入れたデザインで建築設計のほか、家具、ガラスウェアのデザインなど現在も愛される名品を数多く残しました。本展では、このように互いに影響しあい、補完しあいながら制作を行ったアアルト夫妻の業績を、二人の出会いからモダニズムの潮流を受けて機能主義へと至り、更に国際舞台での活躍に続く過程をご紹介します。

展覧会は、アアルト・ファミリーコレクションとアルヴァ・アアルト財団の全面的な協力を受け、貴重なデッサンや図面のみならず、公私ともにパートナーであった二人の軌跡を記録する写真なども展示します。

また、2019年はフィンランド・日本の修好100周年にあたり、2020年にかけてギャラリーエークウッドおよび竹中道具館で本展の一部を先駆けて紹介しています。

展覧会構成

イントロダクション 二人のアアルト

ヘルシンキ工科大学を卒業後、アルヴァが設立した小さな建築事務所にアイノが訪れたことから 2人のパートナー関係は始まりました。暮らしを大切にアイノの視点が加わったことで、アルヴァの作品には柔らかさや優しさが生まれたと言われています。

1920年代に国際的に起こったモダニズムの影響を受けながらも、夫妻はフィンランドの環境特性に配慮し、自然のモチーフを取り入れた独自のデザインを探求していきます。



(1)

1920年代 協働のはじまりーモダニズムとの出会い

1章 イタリアから持ち帰ったもの

1920年代、フィンランドではまだ古典主義建築が隆盛を誇っていました。1924年の秋、アイノとアルヴァは新婚旅行のために北イタリアを訪れ、バロックやルネサンス様式の建築を見て刺激を受けます。この経験は、その後にアルヴァが初めて手掛けた重要な公共建築の作例となるユヴァスキュラの労働者会館やムーラメの教会に活かされました。一方のアイノは、家族のために素朴な夏の家、ヴィラ・フローラを設計しています。

2章 モダンライフ

1927年、アルヴァの事務所が大規模建築プロジェクトである南西フィンランド農業協同組合ビルの設計競技に優勝したのを機に、一家はトゥルクに移住します。当時フィンランドで最先端だった国際都市で、革新的な技術や洗練されたモダンな生活スタイルに触れ、アイノとアルヴァの建築は短期間のうちに完全なモダニズムへと変貌をとげていきました。特にアルヴァが近代建築国際会議(CIAM)に参加したことで、2人は交流の場を国外へも広げ、社会をよりよくするものとしてのモダニズムの考え方を深めていきます。

1930年代 飛躍－フィンランドから世界へ

3章 木材曲げ加工の技術革新

かねてより木材による新たなデザインの可能性を探っていたアアルト夫妻は、トゥルクで家具の開発にも注力しました。熟練した家具職人オット・コルホネンとの出会いによって、木材曲げ加工の技術を発展させ、国産で安価なバーチ材を使用した「パイミオ チェア」を誕生させます。この作品は、アアルトの名を家具デザイナーとしても一躍有名にしました。また、座面と足の接続部の強度を高めるために「L-レッグ」という加工技術を開発し、特許を取得しています。



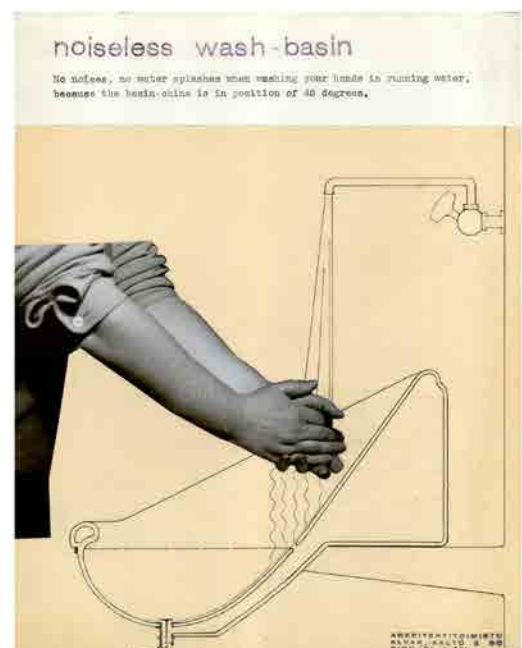
(2)

4章 機能主義の躍進

国内でも早い段階でモダニズムの思想や手法を取り入れたアルヴァは、規格化された部材や軽量間仕切り壁によって部屋の数を増減することができるフィンランド初の機能主義集合住宅を設計しました。その後、本格的な機能主義建築であるトゥルン・サノマツト新聞社ビルをはじめ、規格化への取り組みを始めます。この頃の代表的な作品として、パイミオのサナトリウムやヴィープリの図書館があります。



(5) ヴィープリの図書館 講堂 Alvar Aalto Foundation



(6) パイミオのサナトリウム 病室のための「音の静かな」洗面台(オリジナル・ドローイング)
Alvar Aalto Foundation

5章 アルテック物語



(3)

1935年、インテリアデザインを手掛ける会社アルテックがヘルシンキに設立されました。アイノが初代アートディレクターを務め、当時最先端の技術を使ったアアルト家具に加えて上質な輸入品を販売しました。また、ストアではモダンアートの展覧会を開催するなど、フィンランドにおける文化の発信地となりました。

また、夫妻はレストラン・サヴォイのような総合的なインテリアを手掛けたり、幼稚園や保育園の内装を提案するなど、国民の暮らしを向上させる手段としてのモダニズムを推し進めました。

6章 モダンホーム

住宅問題に関心を持っていたアルヴァは、社会をより良くする手段としてのモダニズムの形に注力します。パイミオのサナトリウムやカウトゥアの製紙工場の社宅など、労働者のための機能的な集合住宅を提案し、また実業家などの個人の住宅のインテリアもアルテックの家具やモダンアートを組み合わせて構成しました。普遍的で使いやすく居心地のよい住居づくりを紹介するために、数多くの展示会も開催しています。



(7)マイレア邸 リビングルーム Alvar Aalto Foundation
Photo:Maija Holma

1930年代後半～1940年代 国際舞台での功績 引き継がれる二人のヴィジョン

7章 国際舞台でのアアルト夫妻

アアルトの名前はその機能主義的な建築作品と革新的な家具によってヨーロッパに広く知られるようになっていきます。1933年のミラノ・トリエンナーレや1937年のパリ万国博覧会への参加、また1938年のニューヨーク近代美術館での個展の開催、そして1939年ニューヨーク万国博覧会におけるフィンランド館のデザインなど、アイノとアルヴァの活動は国境を越えて拡大し、彼らに対する評価は時の一流建築家と肩を並べるほどになりました。



(4)

エピローグ 分かち合ったヴィジョン

ニューヨーク万国博覧会の参加によってアメリカでも評判を高めたアルヴァは、マサチューセッツ工科大学(MIT)に教師として招かれ、また同大学の学生寮ベーカーハウスの設計も依頼されました。これは、アイノとアルヴァがともに手掛けた最後のプロジェクトの一つになりました。

夫妻が協働した1949年までの25年間にアイノが果たした功績を明らかにすることは不可能ですが、ファミリー・コレクションを始め今日まで残されている数多くの資料や写真が2人の軌跡を物語っています。



(8)アイノ・アアルトとアルヴァ・アアルト、1937年
Aalto Family Collection Photo: Eino Mäkinen

関連イベント

※新型コロナウイルス感染防止のため、予定を変更する場合があります。当館Webサイトより最新の情報をご確認ください。

記念講演会 「アイノとアルヴァ 二人の感性、二人の功績」

講師：白川裕信氏(ギャラリー エー クワッド館長)／岡部三知代氏(ギャラリー エー クワッド副館長)

日時：7月11日(日)午後2時より約90分

場所：ミュージアムホールにて(定員125名)

聴講無料、要観覧券(当日先着順)

学芸員による解説会

日時：7月24日(土)、8月14日(土) いずれも午後4時より約45分

場所：レクチャールーム(定員50名)

聴講無料(当日先着順)

ミュージアム・ボランティアによる解説会

日時：会期中の毎週日曜日 午前11時～(約15分)

場所：レクチャールームにて(定員50名)

聴講無料(当日先着順)

こどものイベント

詳細が決まり次第、当館のWebサイトにてお知らせいたします。

こどものイベントについてのお問い合わせ TEL 078-262-0908

開催情報

特別展「アイノとアルヴァー 二人のアルト フィンランドー建築・デザインの神話」
AINO and ALVAR AALTO: Shared Visions

会期 2021年7月10日(土) - 8月29日(日) ※開幕日を7月3日から変更しました。

開館時間 午前10時 - 午後6時(金・土曜日は午後8時まで)※入場は閉館の30分前まで

休館日 月曜日(ただし、8月9日(月・振休)は開館、翌10日(火)は休館)

会場 兵庫県立美術館 企画展示室

主催 兵庫県立美術館、毎日新聞社

共催 公益財団法人ギャラリー エークワッド

特別協力 アルト・ファミリーコレクション(アルヴァ&アイノ アルト・エステート)、アルヴァ・アルト財団
公益財団法人 竹中育英会

後援 フィンランド大使館、フィンランドセンター

協賛 フィンエアー、フィンエアーカーゴ、アルテック、イッタラ

特別協賛 公益財団法人伊藤文化財団、公益財団法人日本教育公務員弘済会 兵庫支部

企画協力 S2株式会社

| 区分 | 当日 | |
|-------------|--------|------|
| 一般 | 1,600円 | |
| 大学生 | 1,200円 | |
| 高校生以下 | 無料 | |
| 70歳以上 | 800円 | |
| 障がいの ある方 | 一般 | 400円 |
| | 大学生 | 300円 |

※予約優先制です。詳細は当館 Web サイトにてご確認ください。

予約・展覧会についてのお問い合わせ TEL 078-262-1011

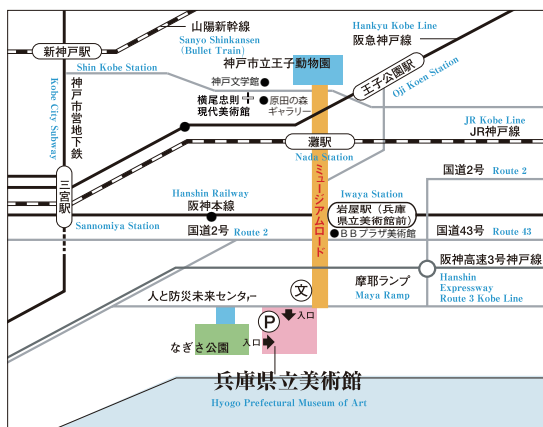
※一般以外の料金でご利用される方は証明書を当日ご提示ください。

※障がいのある方1名につき、介護の方1名無料です。

※コレクション展は別途観覧料が必要です(本展とあわせて観覧される場合は割引があります)。

※団体鑑賞をご希望の場合は事前にご連絡ください。

交通案内



- ・阪神岩屋駅(兵庫県立美術館前)から徒歩約8分
- ・JR神戸線灘駅南口から徒歩10分
- ・阪急王子公園駅西口から徒歩約20分
- ・JR三ノ宮駅南から神戸市バス(29、101系統)
阪神バスにて約15分
HAT神戸方面行き「県立美術館前」下車すぐ
- ・地下駐車場(乗用車80台収容・有料)

お問い合わせ

兵庫県立美術館

学芸担当: 飯尾、小林

広報担当: 細田、東原、宇高

TEL: 078-262-0905(直通) FAX: 078-262-0903 E-mail: press@artm.pref.hyogo.jp

特別展

「アイノとアルヴァー 二人のアアルト フィンランドー建築・デザインの神話」 広報画像申込書

e-mail : press@artm.pref.hyogo.jp / FAX : 078-262-0903 兵庫県立美術館 企画広報担当宛

ご希望画像の作品番号にチェックを入れ、媒体情報をご記入の上、本紙を e-mail または FAX にてお送りください。
申込確認に数日かかる場合がございます。あらかじめご了承ください。

1 アイノ・アアルトとアルヴァー・アアルト、ニューヨーク万国博覧会・フィンランド館にて、1939年
Aalto Family Collection

2 アルヴァー・アアルト 41 アームチェア パイミオ、1932年 (design)
Alvar Aalto Foundation Photo:Tiina Ekosaari

3 アイノ・アアルト ポルゲブリック・シリーズ、1932年 (design) Alvar Aalto Foundation

4 ニューヨーク万国博覧会・フィンランド館、1939年 Alvar Aalto Foundation

5 ヴィープリの図書館 講堂 Alvar Aalto Foundation

6 パイミオのサナトリウム 病室のための「音の静かな」洗面台 (オリジナル・ドローイング)
Alvar Aalto Foundation

7 マイレア邸 リビングルーム Alvar Aalto Foundation Photo:Maija Holma

8 アイノ・アアルトとアルヴァー・アアルト、1937年 Aalto Family Collection Photo: Eino Mäkinen

●貴媒体の情報をご記入ください。

○媒体名 (番組・雑誌名等) :

○媒体種 : 新聞・雑誌・ミニコミ・TV・ラジオ・WEB・その他 ()

○掲載・放送予定日 : ○参考 URL

○原稿確認予定日 :

※WEB 掲載の場合、いずれかに○をつけてください。 コピーガード対応 可 ・ 不可

●申請者の情報をご記入ください。

○貴社名 :

○所在地 : 〒

○ご担当者名 :

○メールアドレス :

○電話番号 :

【画像使用に際しての注意事項】

○「作家名」「作品名」「制作年」「所蔵先」を明記してください。

▼参考

「作家名」アルヴァー・アアルト

「作品名」41アームチェア パイミオ、1932年 (design)

Photo:Tiina Ekosaari

「所蔵先」Alvar Aalto Foundation

○作品画像の加工 (着色、トリミング、文字載せなど) はできません。

○基本情報、画像使用の確認のため、ゲラ・原稿の段階で「企画広報担当」までお送りいただきますようお願いいたします。

○掲載媒体を1~2部、もしくはURL、同録 (DVD、CD) を「企画広報担当」宛にお送りください。

○画像使用は本展覧会の紹介用のみとさせていただきます (会期終了まで)。

○再放送、転載など二次使用をされる場合には、改めて申請願います。

兵庫県立美術館 取材申込書

取材をご希望の方は下記にご記入のうえ、
取材希望日の3営業日前までに
 メールまたはFAXにてお申込みください。

お申込日 年 月 日

メール送付先: press@artm.pref.hyogo.jp / FAX送付先: [078-262-0903](tel:078-262-0903)

取材内容

| | | | | | | | | | | |
|---------------|---|----------|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 希望日時 | 第1希望 | 年 | 月 | 日 | 曜 | 時 | 分 | ～ | 時 | 分 |
| | 第2希望 | 年 | 月 | 日 | 曜 | 時 | 分 | ～ | 時 | 分 |
| | 第3希望 | 年 | 月 | 日 | 曜 | 時 | 分 | ～ | 時 | 分 |
| 希望場所 | | | | | | | | | | |
| 企画内容 | | | | | | | | | | |
| カメラ撮影 | <input type="checkbox"/> あり スチール 台 ムービー 台 三脚/脚立 台 <input type="checkbox"/> なし | | | | | | | | | |
| 取材人数 | 人 | 取材時の代表者名 | | | | | | | | |
| 媒体種別 | <input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> 新聞 <input type="checkbox"/> Web <input type="checkbox"/> その他() | | | | | | | | | |
| 媒体名 | | | | | | | | | | |
| 掲載・放送 予定日時 | <input type="checkbox"/> 掲載 年 月 日 曜 時 分 <input type="checkbox"/> 放送 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|------|--------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| ご連絡先 | 担当者名 | | | | | | | | | |
| | 社名・部署名 | | | | | | | | | |
| | 住所 | | | | | | | | | |
| | 電話番号 | | | | | | | | | |
| | FAX | | | | | | | | | |
| | E-mail | | | | | | | | | |

- * 企画内容によってはご要望に沿えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。
- * 作品の著作権保護や出展作品のクレジット確認等のため、展示風景や作品の画像使用にあたっては、紙面掲載、番組放送前に原稿を確認させていただいております。校正段階での原稿・映像等を事前に広報専用メールへご提出ください。
- * 掲載媒体を1～2部、もしくはURL、同録(DVD、CD)をお送りください。

〈取材についてのお問い合わせ〉

兵庫県立美術館 企画広報担当(細田・東原・宇高)
 〒651-0073兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1
 TEL:078-262-0905 FAX:078-262-0903 Mail:press@artm.pref.hyogo.jp